

第4期群馬県教育振興基本計画（群馬県教育ビジョン）の素案

令和5年10月25日時点

最上位目標

自分とみんなのウェルビーイングが重なり合い、高め合う共生社会へ向けて
—ひとりひとりがエージェンシーを発揮し、
自ら学びを作り、行動し続ける「自律した学習者」の育成—

- 自分ひとりのウェルビーイングだけでなく、周りの人たちも同じようにウェルビーイングで、更にそれらが互いに影響を与え合い、高め合っていくような共生社会を目指すことをメインテーマとして掲げる。
- サブテーマには、そのために教育がなすべきこととして、一人ひとりがエージェンシーを発揮して、自発的に個別最適な学びに向かい、自らを高め、実際の行動に移していけるような「自律した学習者」の育成を掲げる。
 - ※「学習者」：子どもだけでなく、大人も含む一人ひとりが「学習者」であり、様々な場において学び続けていく者である
- 「ウェルビーイング」や「エージェンシー」は、何かの「到達」や「達成」を目指すものではなく、継続して高め続けていくものであることから、「し続ける」という動的な向上目標とする。
- こうした考え方は、群馬県新・総合計画の「始動人」とOECDが提唱する「ラーニングコンパス」の理念を踏まえたものである。

群馬県の教育が目指す学習者像

- ・「最上位目標」を分解・具体化した学習者の要素
- ・一人一人の学習者に（濃淡はあっても）具えて欲しい5つの要素

① 「自らが主語となる学びを作り、深めていく」

……学習者一人ひとりが自発的に自らの興味・関心に従って学びに向かい、粘り強くあきらめずに取り組み、深めていくこと

② 「社会課題を自分事化して 行動に移す」

……社会の形成者としての自覚を持ち、社会課題の自分事化して考え、実際の行動に移す行動力を持つこと

③ 「多様性を尊重し、互いに認め合う」

……国籍、人種、宗教、性別、経済力など自分と異なる他者を知り、違いを認め合い、お互いを価値ある者として相対すること

④ 「対話と交流により、信頼関係を築いていく」

……自分とみんなのウェルビーイングを高めるために必要な信頼関係を対話と交流によって自ら築いていけること

⑤ 「生涯にわたり学び続ける喜びを実感し共有していく」

……人生100年時代に学び続けることの「大切さ」だけでなく、「学ぶことは楽しい」と学習者が実感し、その思いを共有し、広げていくということ

目標実現のために持ち続ける視点

- ・「最上位目標」から「目指す学習者像」までを含む「目標」実現のため、常々頭に入れて、何か判断に迷ったときの道しるべとするために持ち続ける考え方

① 「大人も、子どもも、社会的な“一人の主体”」

……「大人も」「子どもも」と併記することで、両者が対等であることを示す。子どもは、一方的に守られる・教えられる存在ではなく、自発的に社会に影響を与えられる存在であり、そのことを大人も、子ども自身も認識することが、自他を尊重し、自ら行動する姿勢を育むことにつながる

② 「学校で、家庭で、地域で… 自ら学び育つ、共に学び育つ」

……「学び=学校」という一般的な社会認識からの転換が必要であること。様々な場における個々の学習者による自律的な学びと共に、他者との関わりの中で生じる協働的な学びにより、それぞれの学習者が成長していくことが大切であること。

資質・能力 (コンピテンシー)

知識

思考スキル
・実技

姿勢・
価値観

変革を促す
資質・能力
(コンピテンシー)

新たな価値を
創造する力

対立やジレンマ
を調和する力

責任ある行動を
とる力

基盤となる
資質・能力 (コンピテンシー)

認知の基盤
(様々なリテラシー)

社会情動の基盤

健康の基盤
(心と体)

※「様々な背景要因」により、困難さを抱えている者に対しては、いっそうの配慮が必要

自分と社会の ウェルビーイング

行動
予想・行動・振り返り



「資質・能力」と
エージェンシーは
相互に強化し合う

基盤となる
ウェルビーイング

エージェンシー

- 自分と他者を尊重した上で課題を自分事化し、自ら考え、判断して責任ある行動をとろうとする意志の強さ
- 多様な価値観の中で、創造的な対話を行おうとする意志の強さ

他者や環境との関わり

“個人”を尊重できる”健全な”集団であるためのカギ

「対話」と「交流」による信頼関係

○メンバーの「多様性」、集団の外に対する「開放性」、メンバー間の「対話」と「交流」による「信頼関係」があること (京都大学 内田氏)

○「集団」のメンバー間に、「対話」と「交流」による「信頼関係」が形成されていれば、集団の中でも個人のエージェンシーを生かすことができる。(OECD 田熊氏)